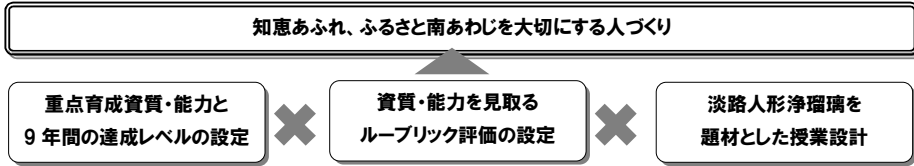


南あわじ市コアカリキュラムの考え方

(1) 南あわじ市コアカリキュラムの構成



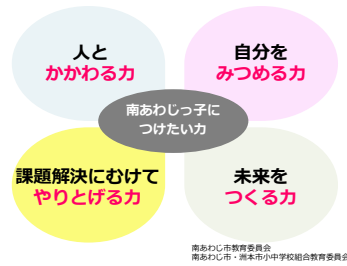
南あわじ市コアカリキュラムは、「知恵あふれ、ふるさと南あわじを大切に作る人づくり」を目標に、育成すべき資質・能力の明確化と、その資質・能力を見取る評価方法の開発・導入、そして、南あわじが世界に誇る伝統芸能である淡路人形浄瑠璃を題材とし、全学年 10 時間以内で授業設計しています。

(2) コアカリキュラム開発の進め方

●重点育成資質・能力と、9年間の達成レベルの設定

重点育成資質・能力は、平成 30 年度に各学校から 1 名ずつ選出された 22 名のコアカリキュラム開発メンバーの中から、10 名のコアティチャーを中心に、以下の流れで設定しました。

- ①「南あわじっ子につけたい力」をもとに、そこに含まれる具体的な資質・能力を列挙する。
- ②列挙された資質・能力の中から特に重要と思うものを3つに絞り込む。
(3つに集約したのは、全ての児童・生徒が達成できるようなコアとなる資質・能力としたため。)



<重点育成資質・能力>

ア)互いの強み弱みを認め合い、チームとして高めあう力

イ)周りの状況からよみとったり、自ら収集したりした情報を処理し、活用する力

ウ)課題を明確に把握し見直しをもって主体的に取り組む力

- ③各学年で、それぞれの重点育成資質・能力が身に付いている児童・生徒の姿を具体的に、9 年間の達成レベルを策定する。 ※右ページ表 1 参照

●資質・能力を見取るルーブリック*評価の設定

資質・能力の育成を見取るために本カリキュラムでは全学年でルーブリックを作成し、それを評価に生かしています。

※ルーブリックとは成功の度合いを示す数レベル程度の尺度と、

それぞれのレベルに対応するパフォーマンスの特徴(児童・生徒の姿)を示した記述語からなる評価基準表。

(中央教育審議会 平成 28 年度「学習評価に関する資料」より)

項目	尺度	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
項目	…できる …している	…できる …している	…できる …している	…できる …している	…できない …していない

記述語 ルーブリックのイメージ例

<ルーブリック評価の特徴>

ルーブリックは児童・生徒がめざすべき目標として単元の導入で先に提示します。ルーブリック評価の主な特徴は、

- ・児童・生徒自らが単元の目標を理解し、主体的な目標達成につながる
- ・児童・生徒の最終的な到達度だけでなく、現時点での到達度や伸びを測ることが可能となる
- ・達成レベルが明確化されることで、複数の教員による評価の標準化がはかられるなどがあげられます。

<活用方法>

- ①単元の「導入」で、現在のレベルの確認をさせるとともに、単元を通した目標として提示。
- ②各学習段階において、授業開始時・終了時に確認。

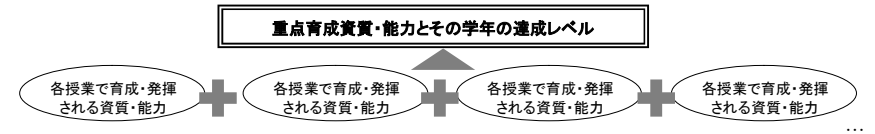
※ただし 1・2 年生は毎授業の振り返りにより情報過多になることを懸念し、今回のコアカリキュラムでは単元のまとめでの振り返り

シートにしている。その代わり、単元の導入時や、各学習段階において、単元ルーブリックの内容をもとに教員が声かけを行うなど、児童が意識できるようにする。

- ③単元の「まとめ」で、単元を通して自身の達成レベルを確認。

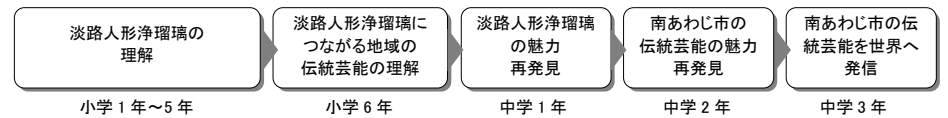
<重点育成資質・能力とルーブリックの評価項目との関連>

重点育成資質・能力を育成するために、各学習段階で育成・発揮する資質・能力(スキル)を特定、それをもとに、達成のレベルごとに基準を作成しています。



●淡路人形浄瑠璃を題材とした授業設計

限られた時間(1 学年 10 時間以内)の中で南あわじについて理解を深め、郷土への愛着や誇りを持てるよう、「淡路人形浄瑠璃」をベースとして系統的に学習内容を積み上げています。



<表 1 重点育成資質・能力と 9 年間の達成レベル>

	ア)互いの強み弱みを認め合い、チームとして高めあう力	イ)周りの状況からよみとったり、自ら収集したりした情報を処理し、活用する力	ウ)課題を明確に把握し見直しをもって主体的に取り組む力
中 3	協働活動の意味と価値や、お互いの特性を理解し、目的に応じて最適な連携により最大の効果を発揮してチームの力を高める	これまでの課題についての情報処理・活用手法を検証し、多面的な分析と他者との建設的な議論により、新たな仮説や結論を導き出し、条件に応じて適切に提案・発信する	課題に対する解決案の検証結果から、実効性のある解決案を策定し、具体的な実現を目指す
中 2	協働活動の意味と価値を理解し、活動の結果から互いを認め合い、次の協働活動に活かす	自ら課題を設定し、適切に情報処理・活用手段の選択し、他者と建設的な議論をしながら解決に必要な情報を判断し、対象や目的に応じた表現で発信する	課題に適した情報の収集・分析により見出した解決案を多面的・多角的に検証する
中 1	協働活動に意思をもって参画し、現状を客観的に観察・分析する	自ら進んで課題を見つけ、解決に必要な情報を適切な選択により収集し、話し合い、導き出した結論について表現を工夫してまとめ・発表をする	課題に適した情報の収集・分析により、課題に対する解決案を策定する
小 6	自分の役割を理解し、役割を認識して協働活動に参画する	目的や視点に応じた適切な調べ方を選択して情報収集し、調べ、検討を通して、事実と意見を明確にまとめ発表する	課題を多面的にとらえ、解決のための考え(手だてや手順)を適切な手法で選択し、よりよい解決案を見出す
小 5	互いの特性を認め合い、多様な考え方についての価値を理解して協働活動に参画する	目的や視点を明確にして情報を集め、調べたことの結果や結果を適切な手法でまとめ、発表する	課題を多面的に捉え、解決のための考え(手だてや手順)を適切に選択し、解決案を見出す
小 4	自他を理解し、認め、他者の考えと自分の考えを比較、分析して自分の考えを深める	身近な社会について、見学・調査したり、資料で調べたり、調べたことを自分の言葉でまとめ、発表する	課題に対する自分の考えをまとめ、他者を意識して発表し、話し合いなどにより自分と他者の考えの違いから再考した自身の意見(賛成や反対などの理由)を示す
小 3	自他を理解し、認め、相手の状況に応じて自分の意見を言える	身近な社会について資料を用いて調べ、調べたことを図や文章にまとめる	課題に対する自分の考えをまとめ、わかりやすく発表したり、自分と他者の考え(賛成や反対など)を比較したりしながら聞く
小 2	他者との違いに気づき、自分との違いを理解する	身の周りの人や出来事について興味を持ち、家族や周囲の人に聞いたり、話したりする活動を通して伝え方を知る	課題に気づき、その気づき(わかったこと・思ったこと・不思議に思ったこと)を、相手を意識して話したり、書いたりすることで課題について理解する
小 1	他者に関心を持つ	身の周りの人や出来事に興味を示し、自分との関わりを理解する	課題と出会い、わかったことや思ったこと、不思議に思ったことを自分らしく話したり、書いたりする